

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：障がい者総合サポートセンター事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第1回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和2年7月27日(月) 13:30~15:30				
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委員 (部会長：志村 陽子)(副部会長：蛭子 明子) <敬称略>				
	宇田尻 浩司	遠藤 文夫	田邊 俊子	藤澤 成光	宮坂 貴子
	粟田 修平	生駒 友一	石塚 由江	金丸 正明	前田 斉
	オブザーバー：北畠 拓也 (おおたTSネット)				
	区職員：山下 潤二 (福祉管理課調整担当係)				
	事務局：宮崎 理恵、森崎 恵里、石川 景子、江川 奈保美 (障がい者総合サポートセンター)				
1 連絡・確認事項					
(1) 参加者・配布資料の確認 令和2年度体制の顔合わせをする。					
(2) 6月30日実施の運営会議報告					
1) 令和2年度 自立支援協議会運営について					
<ul style="list-style-type: none"> ・大田区自立支援協議会会長の新会長は、障がい者の意思決定支援の研究をしておられるので、今後は権利擁護の視点で意見をいただくことも可能ではないか。 ・第1回本会は、10月に予定。本会委員は2年任期のため今年度も継続。専門部会のみ委員は1年任期のため本日をもって委嘱する。 ・専門部会活動は7月から開始するが、全体合同部会で専門部会の取り組みについて検討が必要な場合は、運営会議で検討を行う。 					
2) ワーキンググループの位置づけの確認					
昨年度の防災・あんしん部会では2つのワーキンググループが活動した。一定期間(1年未満)で活動することを再確認。					
2 議題					
(1) 昨年度活動の共有 (報告書より)					
1) 専門部会活動					
令和元年度大田区自立支援協議会報告書より、志村部会長から説明。					
【防災】					
<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチとして、東六郷一丁目町会防災訓練に参加、矢口特別支援学校福祉避難所開設訓練の見学・参加、大田文化の森で開催した大田区総合防災訓練で自立支援協議会ブースの設置をした。 ・公開性の高い学習会・勉強会を目的に「マイ・タイムライン学習会」を専門部会で開催した。 					

【権利擁護】

昨年度は、「おおた TS ネット小嶋 愛斗 弁護士」より権利擁護と障害者差別解消法について部会内で勉強会を2回実施した。

【その他】

専門部会にて、ヘルプカードの改良に向けた意見集約をした。

2) ワーキンググループ

【調査・研究】

平成30年以前に行った福祉避難所へのアンケート結果を踏まえ、福祉避難所の開設に関するアンケートを作成し、福祉避難所開設協定施設にアンケート調査を実施した。結果については、区内の関係機関へ報告した。

【自助・共助のツール作成】

ヘルプカードの使い方などを知ってもらう「ヘルプカードミニ事例集 Vo1.1」を作成した。さらに大田区総合防災訓練の自立支援協議会ブースで、その事例集や「避難所マップ」と「ハザードマップ」を活用して、ヘルプカードの使い方や災害時の避難所の位置などを来場者へ説明、啓蒙した。

3) 委員からの意見

- ・今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、区内の防災訓練は縮小・中止となる可能性が高い。
- ・昨年度、「調査・研究」のワーキンググループに参加した。アンケートは95パーセントと高い回収率だった。回答には「福祉避難所として何をしたいのかわからない。」という意見もあり、実際に被災した場合に避難所として機能できるとは言い難い。調査・研究によるアンケートは、施設に福祉避難所の意識づけのため継続してほしい。

(2) 今年度の検討事項と年間スケジュールの検討

1) 各委員からの意見（今年度取り組みたい内容）

- ・九州の水災害時に避難所が開設されたが、新型コロナウイルスの感染を恐れて利用しないという住民がいたようだ。また、近年の風水害は対策をしても対応が難しい場合が見受けられる。このようなことからまた調査・研究では、視点を変えて、当事者や家族はどの時間帯に被災すると対応が困難なのか、アンケートをしてもいいのではないか。
- ・震災の際に車中泊している場合が、増えている。避難所だけでなく、駐車場の提供ができる場所を増やすこともいいのではないかと。
- ・災害時に一時避難所とは言われているが、視覚的に障がいがあるため自宅待機をを選んでしまう。
- ・障がいがあると災害時に情報を得ることが難しい。聴覚に障がいがある方は、避難所に行くためにも情報がないため、誰かが迎えに来ることを待つしかない。避難所に筆談の準備など、障がい特性に合わせた工夫をしてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大している中で、避難所の対策についてニュースで見たが課題が多いと感じた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況でも、学習会を開催可能な方法を検討したい。

- ・昨年度の調査・研究のワーキンググループには興味がある。今までの経験を活かして協力したい。利用可能な社会資源を見つけるという、プラスの考え方でいいと思う。マイ・タイムラインの学習会をWEBで取り入れではどうだろうか。
- ・当事者として災害が不安。障がいがあり、ひとりでは自宅を出る避難ができないので、自宅に待機せざるを得ない。
- ・福祉避難所協定施設ではあるが、準備は通所で利用している方の視点になってしまう。しかし福祉避難所である以上、様々な障がいの受け入れを求められる。また開設となると、職員の確保も課題となる。現実的な開設に向けた検討が必要。
- ・複合災害の対策の検討が必要。障がいのある方が、被災時に助けがなく困っていると聞いて、対応が不十分と感じた。地域の助けが必要となる。
- ・災害時、避難所は障がいの方を受け入れる準備ができていないのか不安に思う。要配慮者名簿は自治体で管理しているが、活用できていない地区がある。
- ・今年度は、矢口特別支援学校福祉避難所開設訓練と総合防災訓練については、開催日が決まっていない。

(3) 専門部会のみ委員・オブザーバーの校正

- ・本日オブザーバー参加のおおたTSネット北畠氏が、第2回専門部会以降、委員として活動する。
- ・オブザーバーは、昨年度と同様に警察署・消防署、防災危機管理課、福祉管理課、障害福祉課に参加依頼をする。また昨年度、専門部会のみ委員だった東京都立港特別支援学校については、今年度はオブザーバーとして参加する。

3 委員及び関係機関からの情報提供

- (1) 福祉管理課からマイ・タイムライン講習会の開催のご案内
- (2) 新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブックについて

※次回の日程

【第2回防災・あんしん部会】

日時：令和2年8月19日（水） 13時30分～15時30分

場所：障がい者総合サポートセンター A棟5階多目的室